

あったかいがいいね

# シャローム横浜通信

# 9月号

2022年(令和4年) 9月号(第265号)

## 平和の詩

今年で77回目の終戦の夏を迎え  
ました。

最近のYouTubeでは、ウクライナ  
侵攻の映像が流れています。一見する  
とゲームのように感じてしまいます  
が、現実には戦場で多くの「いのち」  
が失われているのです。

平和について考えていた時に、ある  
記事に目が留まりましたので、ご紹介  
いたします。

### 平和の詩

「こわいをして、へいわがわかった」

びじゅつかんへお出かけ

おじいちゃんやおばあちゃんもいっ

しょにみんなでお出かけ うれしいな

こわくてかなしい絵だった

たくさんの人がしんでいた

小さな赤ちゃんや、おかあさん

風ぐるまやチョウチョの絵もあったけ

ど とてもかなしい絵だった

おかあさんが七十七年前のおきなわの

絵だと言った

ほんとうにあったことなのだ

たくさんの人たちがしんでいた

ガイコツもあった

わたしとおなじ年の子どもが

かなしそつに見ている

こわいよ かなしいよ  
かわいそつだよ

せんそうのはんたいはなに?  
へいわ? へいわってなに?

きゆうにこわくなっておかあさんに  
くつついた

あたたかくてほっとした

これがへいわなのかな

おねえちゃんとけんかした

おかあさんは、二人の話を

聞いてくれた

そして仲なあり

これがへいわなのかな

せんそうがこわいから へいわをつ

かみたい

ずつとポケットにいれてもっておく

ぜったいおとさないように

なくさないように

わすれないように

こわいをして、へいわがわかった

この詩は、沖縄市立山内小学校2  
年生の徳元穂菜さんが、宜野湾市に  
ある佐喜真美術館にある「沖縄戦の  
図」を見た時の思いを詩にして、沖

第265号  
令和4年8月15日発行  
(毎月1回 15日発行)

責任者：施設長 高原信夫  
〒241-0802  
横浜市旭区上川井町  
1988  
アドベンチスト福祉会  
シャローム横浜

編集委員  
小林・荒金・加藤  
☎045-922-7333

<https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/>



繩全戦没者追悼式典で朗読されまし  
た。  
私たちの日常は戦争の脅威を感じ  
にくいですが、新型コロナウイルスの感染や  
事故・災害など様々な平和を脅かす  
ことが起こっています。その中で、  
「あったかいがいいね」を感じるこ  
とで、日常生活の中で平和を実感し  
ていただきたいと願っています。  
皆様の日常に平和がありますよう  
お祈りいたします。

施設長 高原 信夫



クッションや靴などその時のご利用者の状態に合ったものを使用させていただく事で、ご利用者様のお体にかかる負担の軽減や残存機能の維持などが期待できます。そのことからシャローム横浜ではマッサージやトレーニングなど個別で行うリハビリの他にもご利用者ごとに必要に応じた福祉用具をご案内させていただいております。

恐縮ではございますが、ご利用者が元気で快適な日常生活を送っていただくためにも、ご家族の方にご相談をさせていただく事もございます。ご質問・ご要望などございましたらお気軽に機能訓練指導員までご連絡ください。

機能訓練指導員 山中 真

今回は、夏野菜レシピを紹介致します。

### ～オクラでイタリアン～

2人前 材料

オクラ 10本 ニンニク 少々  
マヨネーズ 大3 オリーブ油  
パルメザンチーズ 2つまみ

作り方

オクラを茹でずにフライパンで焦げ目をつけて焼いたら、マヨネーズとニンニクを入れて炒め、お皿に盛りつけてパルメザンチーズをふりかけて出来上がり



ポイント・・・オクラは炒め過ぎない事  
簡単ですが、しっかりイタリアンになっています。  
皆さんどうぞお試しください！

栄養課課長 小寺秀偉

## 平和をつくり出す人達は幸いである 第173回 チャプレン 上前 至

コロナ禍による影響はいまだに私達の普通の生活を許さない。本当にやりきれない思いを持つ事があるのは私だけではないと思う。そんな時、これを機会に普段であれば読み過ごしていた書物に触れて新しい発見を得た機会になった事がある。それは辻長一著『幽閉モンテルパ』戦誌刊行会(1984)の本である。私はその書物を通し、改めて戦争の悲惨さと虚しさ悲しさを強く感じさせられた。

著者は32歳の時、新婚、間もなく初年兵として応召、フィリピン戦線に赴きミンダナオ島アグサンで米軍と戦った。そして戦争は1945年8月に日本敗戦となっていたが著者の部隊はそれを見知らずに、その後も1年半もジャングルで潜伏、闘争を続けたのである。そしてある機会に日本敗戦を知らされ武装解除されたが(その時迄に多くは餓死か病に倒れ300名程の仲間は30名程でなっていたが)これで日本に帰れると思った所、あにはからんや、その後マニラ市郊外のモンテルパ

刑務所に戦犯として7年間収容され、その間も絞首刑として何人かが死んでいったのである。その後、関係者の釈放の働きかけもあり昭和28年7月4日付にて全員釈放、日本帰国を許されたのである。

その時、ビクター専属歌手、渡部はま子の『モンテルパの夜は更けて』が日本国民の多くの人々の胸を打ったのは有名な逸話である。著者は獄中で宣教師ネルソンより聖書を学びクリスチャン(SDA)となった。著者は言う「今、ここに筆をおくにあたり、若い人達の皆様が真の平和のために、認識を新たにして下さる一助ともなれば幸いに思います」と。  
『平和をつくり出す人達は幸いである。彼らは神の子と呼ばれるであろう。』

マタイ5章9節

